

## 障がい種別による比較について

権利擁護部会では、虐待の通報等受付状況を報告しており、虐待対応や防止対策に反映しているところである。

虐待認定時及び通報時の障がい種別について、東京都との比較を交えながら報告する。

### 1 虐待と認定した被虐待者の障がい種別

	虐待と認定した件数		構成割合	
	板橋区	都全体	板橋区	都全体
身体障がい	4	98	21.1%	25.7%
知的障がい	10	170	<b>52.6%</b>	<b>44.6%</b>
精神障がい	5	93	26.3%	24.4%
その他	0	20	0%	5.2%
虐待認定総件数	19	381	100%	99.9%

※ 1人の被虐待者が重複障がいを持つ場合、それぞれの該当項目に計上している。

#### ■傾向について

全体構成比を比較すると、都、区ともに知的障がいが多いが最多を占めている。しかし、都の場合は身体障がいと精神障がいが多いがほぼ同値なのに対し、区は、精神障がいが多いが身体障がいを上回っている。

### 2 通報時の障がい種別について

区では、通報時、本人より申告のあった障がい種別について、権利擁護部会で報告している。過去4年間の実績は下記のとおりである。

	R2	R3	R4	R5
身体障がい	6	2	12	13
知的障がい	12	6	<b>25</b>	<b>33</b>
精神障がい	<b>13</b>	<b>8</b>	17	30
不明	0	0	4	2
合計	31	16	58	78

#### ■傾向について

通報時点の障がい種別を比較すると、令和2、3年度は、精神障がいが多いが最多であるものの、令和4、5年度では知的障がいが多いが最多となった。

令和４年度を除き、全ての年度で知的障がいと精神障がいの件数はほぼ同値となっている。

### **３ 今後の課題**

- ・実際に虐待と認定される障がい種別は、知的障がいが多いものの、通報時点では、精神障がいと知的障がいの件数に大きな差はないため、精神障がいについて、より理解を深めていく必要がある。
- ・知的障がいと精神障がいがあるケースもあることから、健康福祉センター等の関係所管と連携を深め、対応していく。

### **備考**

#### １について

虐待認定件数について、表中の都の数値は、「令和４年度 都内における障害者虐待の状況」を参考に作成した。区の数値については、令和５年度の実績値である。

#### ２について

都は、通報時の障がい種別を公表していない。